

大蛇まつり

毎年 5 月に開催される「大蛇まつり」では、大蛇の形をした精巧な神輿が老神温泉の街を練り歩く。この祭りは赤城山の祭神にまつわる古代の神話に触発されたものだ。

伝説では、大蛇の姿をしたこの神は、赤城山の北東に位置する、今の日光国立公園にある男体山のムカデ神と激しい戦いを繰り広げていた。ムカデの矢が大蛇を傷つけ、大蛇は後退しながら矢を引き抜き、地面に突き刺した。矢が刺さった穴から湯が湧き出し、大蛇は癒されてムカデを追い返すことができた。

蛇の神は老神温泉の赤城神社に祀られているが、この神社は蛇が蘇った場所に建てられたという伝説がある。大蛇まつりはこの神社を中心に町内を練り歩くもので、参加者は長さ 25 メートルの手作りの大蛇の神輿を担ぎ、温泉宿から温泉宿へと神の守護を祈願する。神輿は神話に命を吹き込むような細かいうろこや恐ろしい特徴を持っており、メインの神輿に付随して子供たちが担ぐ（長さ 20 メートルほど）の 3 つの小さな蛇の神輿も同様である。

従来、大蛇まつりでは普通の神輿を担いで練り歩いたが、重くて、街道沿いではなく片品川沿いの旅館まで担ぐのは難しかった。そこで、蛇のような形をした神輿が登場し、1950 年代か

ら祭りに取り入れられるようになった。

2001 年、老神温泉の人々は大蛇を祭るためにさらに大きな大蛇神輿を作った。長さ 108

メートル、重さ 2 トンのこの神輿はポリウレタン、木材、防水シートでできており、カーボンファイ

バー製の頭部を備えている。12 年に一度、東アジアの伝統的な干支暦である巳年に行われ

る大蛇まつりに、常設展示されている老神温泉の中心部にある建物から運び出される。担ぎ

手は約 200 人で、2013 年には「世界最長の祭り蛇」としてギネス世界記録に認定された。